

令和5年5月30日

病害虫発生予察情報（飛驒地域） 6月予報

今年は梅雨入り（5/29）が早く、6月は平年よりも曇りや雨の日が多くなる予報もあり、病気の発生が多くなることも懸念されますので、健全な作物の生育維持にこころがけ、早期発見・早期防除に努めましょう。

- 【水 稲】 葉いもち病対策の箱施薬をしていない場合は、粒剤の散布による防除を確実に実施しましょう。
田んぼを見回り、葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- 【果 樹】 カメムシ類のフェロモントラップへの誘殺が、5月4半旬に平年よりも多くありました。蒸し暑かったこと等で一時的に飛来が増加したと思われますが、今後の発生に注意しましょう。
- 【野 菜】 各品目の播種時や定植時には、アブラムシ類・ネキリムシ類・タネバエ対策を実施しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（6月）

病害虫名 発生量		防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等	
		6月						7月				
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
水 稲	イネミズゾウムシ	箱施薬がない場合の防除									箱施薬を実施していないほ場や、多発時には本田防除を実施する。 (防除の目安：100株当たり寄生数が30頭以上)	
	発生量： 並～やや少											
	イネドロオイムシ	箱施薬がない場合の防除										
	発生量：並											
葉 い も ち	葉 い も ち	箱施薬がない場合の防除									補植苗は発生源になるので早めに除去する。 箱施薬を実施していないほ場では、感染好適条件となる6月中旬までに施用する。(次ページ参照) BLASTAMによる感染好適条件を確認する。	
	発生量： 並～やや多											
	カメムシ類	果樹園への飛来があれば										夜温が高いと果樹園への飛来が高まり、気温が高くなるにつれ、飛来は増加する。 飛来状況に注意し、適期防除に努める。
	発生量：やや多											
果 樹	ナシヒメシクイ	フェロモントラップの誘殺量									被害新梢（芯折れ）の発生に注意する。 飛驒地域では、定期防除の実施で問題となる発生はこれまでにない。	
	発生量：やや少											
	ももせん孔細菌病	袋かけ前に実施										袋かけ前に防除を実施し、多発するほ場では早めの袋かけて果実被害が低減できる。 罹病枝は見つけたら切除し、ほ場外に持ち出し処分する。
	発生量：やや多											
野菜全般	ネキリムシ類	定植・播種時粒剤散布									被害が発生してからでは手遅れとなるので、定植時・播種時に粒剤を施用する。	
	発生量：やや多											
	アブラムシ類	黄色水盤による誘殺量										高温乾燥が続くと多発する可能性が高くなる。 防虫ネットやシルバーマルチ等で飛来を抑制する。
	発生量：並											
コナガ	フェロモントラップの誘殺量									あぶらな科野菜や雑草で周年生息を続けているが、飛驒で大きな問題となる発生はこれまでにない。 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。		
発生量：やや少												

病害虫名 発生量		防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等
		6月						7月			
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	
ホウレンソウ	べと病										湿度が高く発病に好適な時期は換気を行い、発病前に予防防除に努める。 春の発生は少なかったが、油断はしない。
	発生量: やや少	← 1 作 1 回は防除を実施 →									
	タネバエ										
	発生量: 並	← 播種時粒剤散布 →									
	ケナガコナダニ										
ホウレンソウ	発生量: 並	← 定期防除 →									餌となる有機物の多用は避ける。 土壌消毒前の作は、発生に注意する。
	灰色かび病										
トマト	発生量: 並～やや多	定期防除 葉先枯れ発生									花がらが残っているとそこに菌が付き、果実に発病する可能性が高くなる。 6月下旬頃から葉先枯れが発生し、その葉（枯葉部分）に病原菌が付くので早期に除去する。

今年度から「カブラヤガ」（丹生川町は以前から調査）と「ヨトウガ」のフェロモントラップによる調査を実施しています。調査結果は、下表のとおりです。

このほかに侵入警戒害虫である「トマトキバガ」の調査も実施していますが、今のところ誘殺はありません。これらの情報はホームページには掲載していませんので、地区情報にて情報提供します。

カブラヤガ誘殺数

月／半旬	高山	河合	丹生川	荘川
3／Ⅲ	4	0	4	0
3／Ⅳ	12	0	0	0
3／Ⅴ	36	1	3	0
3／Ⅵ	17	0	7	0
4／Ⅰ	63	2	15	2
4／Ⅱ	73	34	27	17
4／Ⅲ	88	19	56	5
4／Ⅳ	80	12	53	1
4／Ⅴ	72	18	13	2
4／Ⅵ	45	36	26	0
5／Ⅰ	35	17	18	4
5／Ⅱ	39	29	31	6
5／Ⅲ	54	16	36	3
5／Ⅳ	78	25	45	0
5／Ⅴ	48	35	39	2
5／Ⅵ				

ヨトウガ誘殺数

月／半旬	高山	河合	古川	丹生川	荘川
3／Ⅲ	0	0			
3／Ⅳ	0	0			
3／Ⅴ	0	0			
3／Ⅵ	0	0			
4／Ⅰ	0	0	0		
4／Ⅱ	0	0	0		
4／Ⅲ	1	0	0		
4／Ⅳ	1	0	1		
4／Ⅴ	0	0	2		
4／Ⅵ	4	1	1		
5／Ⅰ	2	0	3	0	0
5／Ⅱ	3	1	3	0	0
5／Ⅲ	4	1	3	3	0
5／Ⅳ	7	5	5	4	0
5／Ⅴ	5	0	4	2	1
5／Ⅵ					

BLASTAMによるいもち病の 好適条件出現初発日

	R4	R3	R2
高山	7/18	6/19	6/26
神岡	7/10	6/17	6/19
河合	6/26	7/1	6/13
荘川六郎	-	7/7	7/22
白川	6/23	7/11	6/26
萩原	6/20	7/1	6/26
金山	6/22	6/16	6/14
下呂宮地	6/20	6/29	6/19

東海地方1か月予報

（名古屋地方気象台5月25日発表）

向こう1か月の平均気温は平年並か高いでしょう。

降水量は、平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、曇りの日や雨の日が多く、後半も平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6～8月は「農薬危害防止期間」です

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて、飛散しないよう十分に配慮してください。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。（トップページQRコード→）

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)